

2023年3月期第2四半期連結決算 説明会資料

(2022年4月-9月)

2022年11月24日



目次

- I . 2023年3月期第2四半期 業績 ……P.3～12
- II . 通期予想と今後の施策 ……P.13～21
- III . サステナビリティ戦略のトピックス ……P.22～25
- IV . Appendix ……P.28～34

I . 2023年3月期第2四半期 業績

第2四半期決算のポイント

第2四半期としては、経営統合以来、売上高および各利益において最高値

- 売上高 4,852億円(前年比:17.7%増)、営業利益 159億円(前年比:27.9%増)、
経常利益 212億円(前年比:53.1 %増)、親会社株主に帰属する四半期純利益 131億円(前年比:39.0%増)
- 水産資源セグメントが好調
 - 養殖魚を含む水産物の外食・業務用向け販売が回復
 - 水産物の相場が依然と高く、当社調達力へのニーズ高で販売好調
 - 荷受事業の水産物取扱数量増も貢献
 - 海外ユニットのペットフード事業(タイ)とスケソウダラ事業(北米)が好業績を牽引
- 加工食品セグメント・食材流通セグメントは、コストアップと値上げ時期のずれにより苦戦

連結損益計算書

(単位:億円)

	22年9月期	21年9月期	増減	増減率
売上高(収益認識基準適用後)	4,852	4,122	730	18%
売上原価	4,170	3,521	649	
売上総利益	682	601	81	
販売費・一般管理費	523	477	46	
営業利益	159	125	35	28%
営業外収益	65	30	34	
営業外費用	12	17	△ 4	
経常利益	212	139	74	53%
特別利益	25	4	21	
特別損失	25	8	17	
税金等調整前四半期利益	212	135	77	
法人税等	54	29	25	
非支配株主に帰属する四半期純利益	27	12	15	
親会社株主に帰属する四半期純利益	131	94	37	39%

段階利益すべてにおいて
第2四半期としては
経営統合以来、最高値

営業外収益の主な内訳:

・為替差益 40億円

特別利益の主な内訳:

・固定資産売却益 16億円

特別損失の主な内訳:

・広島工場の火災損失 22億円

セグメント・ユニット別 実績

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		22年9月期	21年9月期	増減	年間計画	年間計画比	22年9月期	21年9月期	増減	年間計画	年間計画比
水産資源	漁業	168	134	34	353	48%	△ 4	△ 6	2	22	-
	養殖	80	68	12	137	58%	11	△ 4	15	0	-
	水産商事	1,444	1,260	184	2,682	54%	40	22	18	35	114%
	海外	1,061	762	299	1,909	56%	65	46	19	78	83%
セグメント小計		2,753	2,225	528	5,081	54%	113	59	54	135	84%
加工食品	加工食品	510	492	18	990	52%	16	27	△ 11	39	41%
	ファインケミカル	40	40	0	73	55%	8	8	0	14	57%
セグメント小計		550	532	18	1,063	52%	24	34	△ 10	53	45%
食材流通	食材流通	1,043	900	142	2,004	52%	12	16	△ 5	29	41%
	畜産	418	379	39	672	62%	4	4	△ 0	9	44%
セグメント小計		1,461	1,279	181	2,676	55%	16	21	△ 5	38	42%
物流	物流	87	84	3	177	49%	7	7	0	15	47%
その他		2	2	△ 0	3	67%	1	1	0	2	50%
全社		-	-	-	-	-	△ 2	2	△ 4	△ 3	-
合計		4,852	4,122	730	9,000	54%	159	125	35	240	66%

水産資源セグメント

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		22年9月期	21年9月期	増減	年間計画	年間計画比	22年9月期	21年9月期	増減	年間計画	年間計画比
水産資源	漁業	168	134	34	353	48%	△ 4	△ 6	2	22	-
	養殖	80	68	12	137	58%	11	△ 4	15	0	-
	水産商事	1,444	1,260	184	2,682	54%	40	22	18	35	114%
	海外	1,061	762	299	1,909	56%	65	46	19	78	83%
セグメント小計		2,753	2,225	528	5,081	54%	113	59	54	135	84%

第2四半期 事業概況

漁業 メロを始め、主要魚種の販売好調により増収。燃油価格や海上運賃の高騰があったものの赤字幅は縮小。

養殖 量販店や外食向けを中心としたブリ、カンパチの販売数量増加・販売価格の回復に加え、マグロを始めとした主要魚種相場の上昇により、増収増益。

水産商事 外食・業務用向け販売の回復に加え、魚価高や円安の進行による水産物全般の相場の先高感から、当社調達力へのニーズが高まり成約が進み、増収増益。

海外 **[北米]**生産効率の向上や新規獲得のスケソウダラアクセス権益が生産増に寄与。また堅調なマーケットの中で販売価格が上昇し、増収増益。
[欧州]水産物需要拡大に対応した仕入・販売により、増収増益。
[アジア]タイのペットフード事業の北米向け販売が好調で増収増益。

加工食品セグメント

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		22年9月期	21年9月期	増減	年間計画	年間計画比	22年9月期	21年9月期	増減	年間計画	年間計画比
加工食品	加工食品	510	492	18	990	52%	16	27	△ 11	39	41%
	ファインケミカル	40	40	0	73	55%	8	8	0	14	57%
セグメント小計		550	532	18	1,063	52%	24	34	△ 10	53	45%

第2四半期 事業概況

加工食品

簡便食としてのニーズは堅調に推移し、増収。一方、値上げを実施したものの、コストアップとタイミングのずれがあり減益。

ファインケミカル

新規参入した医薬品向けヘパリン*の販売や健康食品向け素材の販売が堅調に推移。

*血液凝固阻止作用のある物質で、血栓症の治療や人工透析の際に使用される

食材流通セグメント

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		22年9月期	21年9月期	増減	年間計画	年間計画比	22年9月期	21年9月期	増減	年間計画	年間計画比
食材流通	食材流通	1,043	900	142	2,004	52%	12	16	△ 5	29	41%
	畜産	418	379	39	672	62%	4	4	△ 0	9	44%
セグメント小計		1,461	1,279	181	2,676	55%	16	21	△ 5	38	42%

第2四半期 事業概況

食材
流通

外食向け販売が回復し、給食、コンビニエンスストア、介護食向けも堅調に推移し増収。一方、生産性の向上や効率化に努めたものの、原材料の高騰や円安の進行により、増収減益。

畜産

欧州産豚肉の取扱い増加や、全般的な輸入畜肉相場の上昇により増収したものの、急激な円安進行による輸入部門での仕入価格上昇によりほぼ前年並み。

物流セグメント

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		22年9月期	21年9月期	増減	年間計画	年間計画比	22年9月期	21年9月期	増減	年間計画	年間計画比
物流	物流	87	84	3	177	49%	7	7	0	15	47%

第2四半期 事業概況

大都市圏を中心に保管需要を取り込み、取扱数量増加。電気料金の値上げに伴う動力費の大幅な増加等が響き利益圧迫したものの、減価償却費減により前年並みの利益を確保。

連結貸借対照表

(単位:億円)

	22年9月末	22年3月末	増減		22年9月末	22年3月末	増減
流動資産	4,084	3,243	841	流動負債	3,022	2,215	807
現預金	223	250	△ 27	仕入債務	505	362	143
売上債権	1,414	1,154	260	短期借入金	1,963	1,385	578
棚卸資産	2,294	1,727	567	その他	554	468	86
短期貸付金	7	3	4	固定負債	1,446	1,392	54
貸倒引当金	△ 4	△ 4	△ 0	長期借入金	1,174	1,121	52
その他	151	114	37	その他	272	270	2
				負債合計	4,468	3,607	861
固定資産	2,440	2,243	197	株主資本	1,583	1,533	50
有形固定資産	1,471	1,402	68	資本金	200	200	0
無形固定資産	326	220	105	剰余金	1,436	1,334	102
(内のれん)	91	80	11	自己株式	△ 53	△ 1	△ 52
投資その他資産	644	620	23	その他包括累計	152	69	83
				非支配株主持分	322	277	45
				純資産合計	2,057	1,879	178
資産合計	6,524	5,486	1,038	負債純資産合計	6,524	5,486	1,038

【資産の増加(1,038億円)】 販売好調・原料高・季節要因による売上債権と、棚卸資産(主に水・畜産物)の増加、北米スケソウダラ関連資産取得による、有形・無形固定資産の増加によるもの。

【負債の増加(861億円)】 主に、有利子負債の増加(+630億円、前年同期比:+533億円/主に商事事業での調達価格増加及び欧州事業拡大に伴う借入金の増加)によるもの。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	22年9月期	21年9月期	増減	主な内容
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 305	60	△ 364	<ul style="list-style-type: none"> ・税金等調整前四半期純利益 (+212) ・減価償却費 (+74) ・売上債権の増減額<増加:△> (△190) ・棚卸資産の増減額<増加:△> (△444) ・仕入債務の増減額<減少:△> (+81) ・法人税等の支払額 (△32)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 182	△ 69	△ 112	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得による支出 (△101) ・有形固定資産の売却による収入 (+26) ・連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 (△36)
財務活動によるキャッシュ・フロー	442	△ 53	496	<ul style="list-style-type: none"> ・短期借入金の増減<減少:△> (+390) ・長期借入れによる収入 (+311) ・長期借入金の返済による支出 (△159) ・自己株式の取得による支出(△52) ・配当金の支払額(△29)
現金・現金同等物の期末残高	219	259	△ 40	—

Ⅱ．通期予想と今後の施策

連結業績予想

(単位:億円)

	2022年3月期 実績 (A)	2023年3月期 期初計画 (B)	2023年3月期 修正計画 (C)	前年同期比 (C)-(A)		期初計画比 (C)-(B)	
					増減率		増減率
売上高	8,667	9,000	9,700	1,033	112%	700	108%
営業利益	238	240	270	32	113%	30	113%
経常利益	276	250	320	44	116%	70	128%
親会社株主に帰属する当期純利益	169	160	190	21	112%	30	119%

(ご参考)

	予想		
1株当たり当期純利益	321.13円	304.06円	376.16円

【売上高】

- 水産物の魚価高、加工食品の値上げ、在外子会社業績の円安効果による為替換算増等により上方修正。

【営業利益】

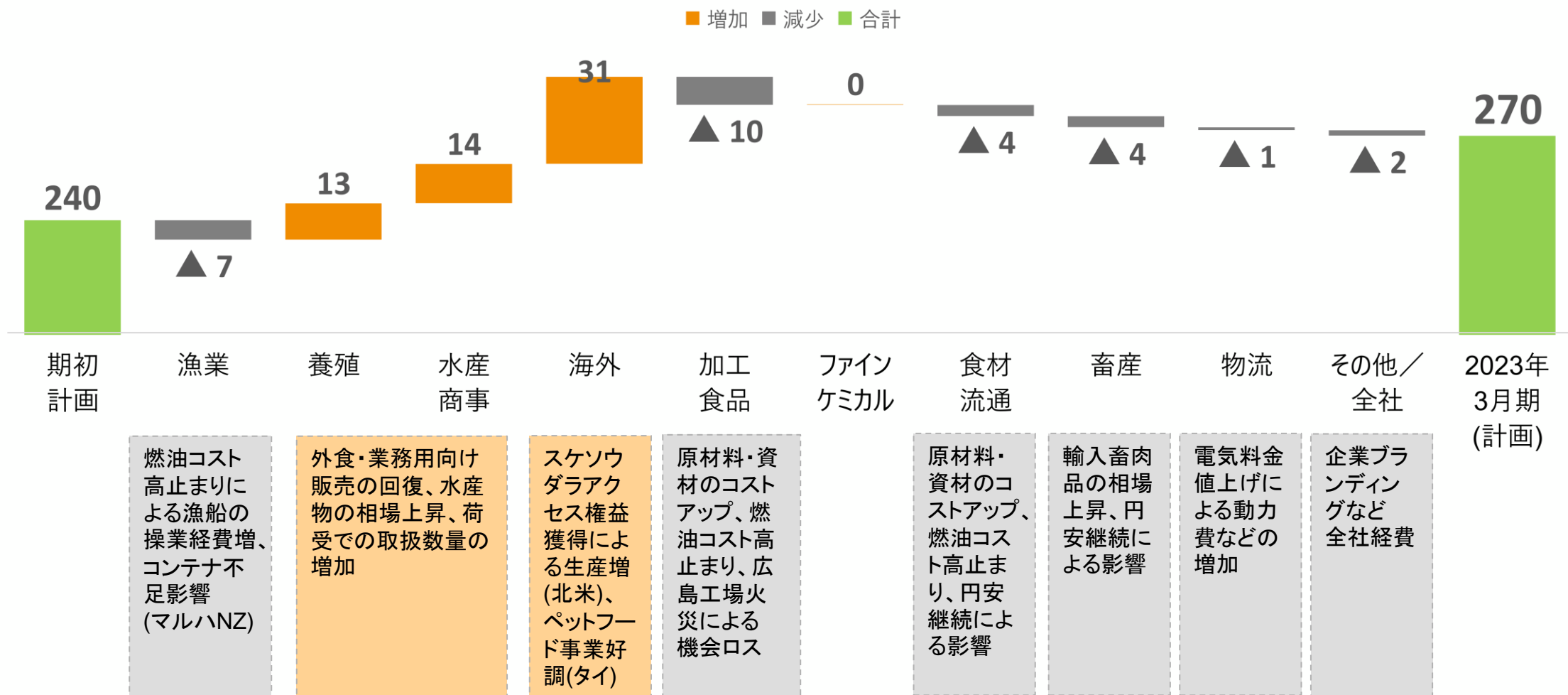
- 第3四半期以降、水産物相場の高止まりによる買い控え等や、引き続きコスト上昇傾向が懸念されるも、第2四半期までの業績を踏まえ上方修正。

連結業績予想／セグメント・ユニット別

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高						営業利益					
		実績			通期計画			実績			通期計画		
		22年9月期	21年9月期	増減	期初計画	修正後	増減	22年9月期	21年9月期	増減	期初計画	修正後	増減
水産資源	漁業	168	134	34	353	395	42	△ 4	△ 6	2	22	15	△ 7
	養殖	80	68	12	137	148	12	11	△ 4	15	0	13	13
	水産商事	1,444	1,260	184	2,682	2,816	135	40	22	18	35	49	14
	海外	1,061	762	299	1,909	2,228	319	65	46	19	78	109	31
セグメント小計		2,753	2,225	528	5,081	5,588	507	113	59	54	135	187	52
加工食品	加工食品	510	492	18	990	958	△ 32	16	27	△ 11	39	29	△ 10
	ファインケミカル	40	40	0	73	77	4	8	8	0	14	14	0
セグメント小計		550	532	18	1,063	1,035	△ 27	24	34	△ 10	53	43	△ 10
食材流通	食材流通	1,043	900	142	2,004	2,077	73	12	16	△ 5	29	25	△ 4
	畜産	418	379	39	672	819	148	4	4	△ 0	9	5	△ 4
セグメント小計		1,461	1,279	181	2,676	2,896	220	16	21	△ 5	38	30	△ 8
物流	物流	87	84	3	177	176	△ 1	7	7	0	15	14	△ 1
その他		2	2	△ 0	3	4	1	1	1	0	2	2	0
全社		-	-	-	-	-	-	△ 2	2	△ 4	△ 3	△ 5	△ 2
合計		4,852	4,122	730	9,000	9,700	700	159	125	35	240	270	30

営業利益計画の増減要因



水産資源セグメント

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高						営業利益					
		実績			通期計画			実績			通期計画		
		22年9月期	21年9月期	増減	期初計画	修正後	増減	22年9月期	21年9月期	増減	期初計画	修正後	増減
水産資源	漁業	168	134	34	353	395	42	△ 4	△ 6	2	22	15	△ 7
	養殖	80	68	12	137	148	12	11	△ 4	15	0	13	13
	水産商事	1,444	1,260	184	2,682	2,816	135	40	22	18	35	49	14
	海外	1,061	762	299	1,909	2,228	319	65	46	19	78	109	31
セグメント小計		2,753	2,225	528	5,081	5,588	507	113	59	54	135	187	52

今後の事業施策

漁業 高利益商材であるメロは、漁獲・販売ともに好調。海外まき網事業(カツオ)は安定操業とコスト削減に努め、収益改善。

養殖 人工種苗の育種や配合飼料の見直し等、コスト低減に努める。

水産商事 荷受事業との協業を進め、国産魚の集荷力を最大限に活用し、グループ全体での調達力・販売力を強化。

海外 [北米]2023年はスケソウダラ漁獲枠が増え、130万トン程度の見込み。新規取得したアクセス権益を最大限活用。
[欧州]グループ化したオランダ、イギリス、イタリアの子会社各社の販売網を最大限に活用し、事業拡大。
[アジア]今期は販売環境が継続する見込み。ペットフードの世界市場は成長しており、全体での販路拡大。

加工食品セグメント

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高						営業利益					
		実績			通期計画			実績			通期計画		
		22年9月期	21年9月期	増減	期初計画	修正後	増減	22年9月期	21年9月期	増減	期初計画	修正後	増減
加工食品	加工食品	510	492	18	990	958	△ 32	16	27	△ 11	39	29	△ 10
	ファインケミカル	40	40	0	73	77	4	8	8	0	14	14	0
セグメント小計		550	532	18	1,063	1,035	△ 27	24	34	△ 10	53	43	△ 10

今後の事業施策

加工食品

重要課題: 冷凍食品事業のコストコントロール。
短期.....追加値上げも検討 / 中長期.....工場再編を計画し、利益率を改善

ファインケミカル

柱となるDHAやEPAなど魚油に加え、新規商材(ヘパリンやイクラオイル等)の投入で事業成長に貢献。

食材流通セグメント

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高						営業利益					
		実績			通期計画			実績			通期計画		
		22年9月期	21年9月期	増減	期初計画	修正後	増減	22年9月期	21年9月期	増減	期初計画	修正後	増減
食材流通	食材流通	1,043	900	142	2,004	2,077	73	12	16	△ 5	29	25	△ 4
	畜産	418	379	39	672	819	148	4	4	△ 0	9	5	△ 4
セグメント小計		1,461	1,279	181	2,676	2,896	220	16	21	△ 5	38	30	△ 8

今後の事業施策

食材流通

人流の回復が収益につながる事業。水産・畜産・業務用加工品の枠組みを超え、顧客起点での販売力を強化。

畜産

円安により輸入品のコストが上昇している為、国産品の取扱いを強化することで市場のニーズへ対応。

物流セグメント

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高						営業利益					
		実績			通期計画			実績			通期計画		
		22年9月期	21年9月期	増減	期初計画	修正後	増減	22年9月期	21年9月期	増減	期初計画	修正後	増減
物流	物流	87	84	3	177	176	△1	7	7	0	15	14	△1

今後の事業施策

大都市圏を中心に保管スペースの供給量がタイトなほか、消費停滞による年明け以降の搬入量の落ち込みを懸念。コスト上昇や嵩高貨物に見合った適正料金の収受でコスト吸収するほか、新規商材の取組み強化。

株主還元

■自己株式の取得および消却

取得した株式総数	当社普通株式 2,017,300株 (消却前の発行済株式総数〔自己株式※を除く〕に対する割合 3.99%)
株式の取得価額総額	4,999,839,300円
取得期間	2022年6月1日～ 2022年9月15日
消却日	2022年11月10日
消却後の発行済株式総数 (自己株式※を除く)	50,603,377株

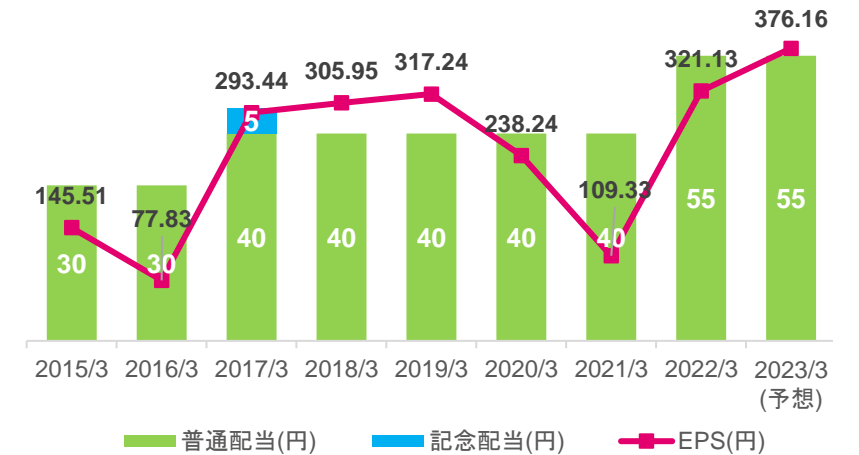
※自己株式には株式給付信託(BBT)が保有する当社株式を含めておりません。

(ご参考)

2022年3月31日時点の自己株式の保有状況

発行済株式総数(自己株式を除く)	52,621,901株
自己株式数	35,009株

■配当金の推移(期末配当)



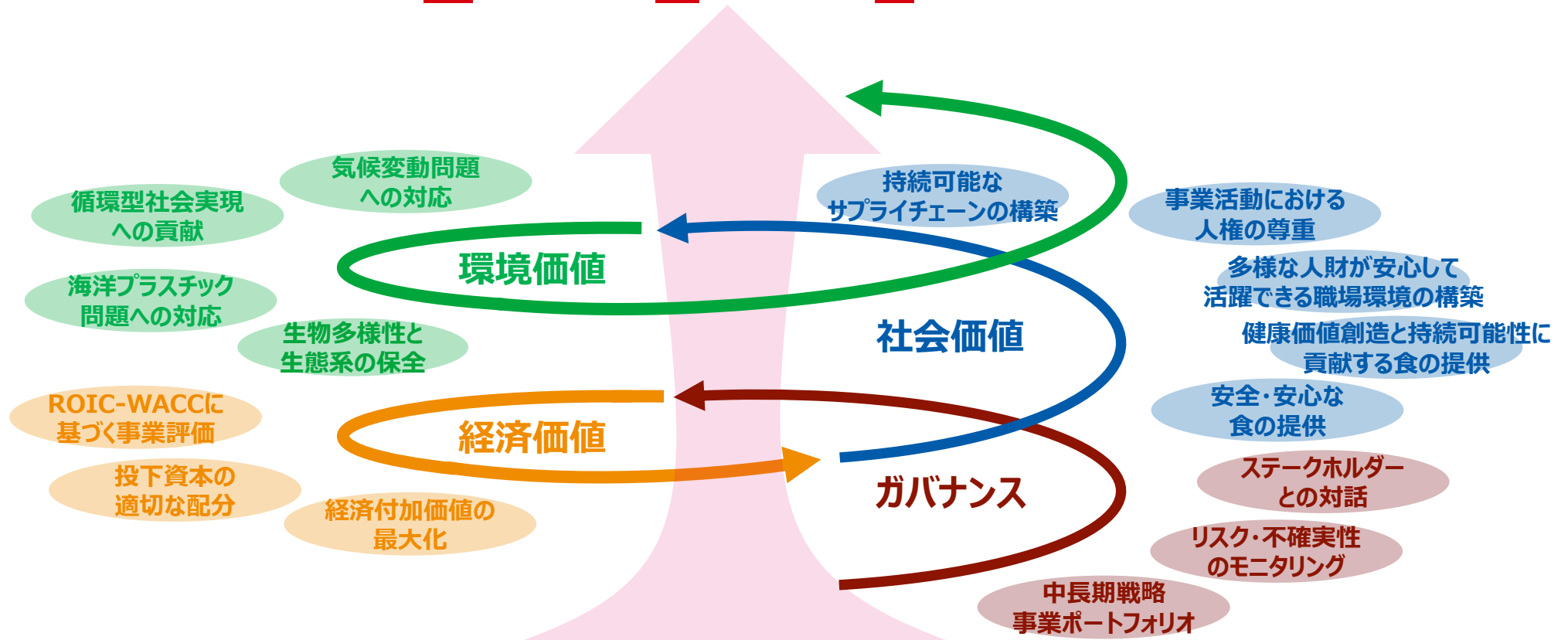
今後の方針：業績動向を踏まえ、財務規律を維持することを前提に、機動的な自己株買いと安定的な配当を検討

Ⅲ. サステナビリティ戦略のトピックス

価値創造の考え方ー MNVの創造 ー

- 経営戦略とサステナビリティの統合により、すべてのステークホルダーに対してMaruha Nichiro Value (MNV)を創造し、企業価値向上と持続的成長を実現

Maruha Nichiro Value



SeaBOS (Seafood Business for Ocean Stewardship)

世界の大手水産会社が参画する、海洋管理のためのグローバルなイニシアティブ SeaBOS (Seafood Business for Ocean Stewardship) の取組みに立ち上げから参画。グローバルな視点で世界の海洋管理の保全、IUU (違法、無報告、無規制) や強制労働などの課題解決に積極的に取り組んでいます。



SeaBOSの取組み

- ・IUU漁業、強制労働・児童労働排除への取組み
- ・絶滅危惧種への取組み
- ・抗生物質使用削減への取組み
- ・海洋プラスチック問題への取組み
- ・気候変動対策への取組み



2022年10月のSeaBOS CEO会議の様子
(開催地: オランダ・アムステルダム)

ブルー・ボンドの発行(本邦初)

海洋資源の保護に対する取り組みは、「世界No.1の水産会社」としての重要な役割

名称	マルハニチロ株式会社 第1回無担保社債(ブルーボンド)
発行年限	5年
発行額	50億円
利率	年0.55%
条件決定日	2022年10月27日
払込日	2022年11月2日
償還期限	2027年11月2日
主幹事証券会社	みずほ証券(株)、三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)
ストラクチャリング・エージェント	みずほ証券(株)
外部評価	(株)格付投資情報センター(R&I)
資金使途	環境持続型の漁業・養殖事業に充当



ブルーボンドの発行については、[当社HP](#)をご覧ください。
左のQRコードからもリンクに飛べます。



資金使途例: アトランド(株)で新規実施のサーモン陸上養殖事業(富山県入善町) / 画像出所: 入善町HP



2022年11月18日、「ICMA & JSDA Annual Sustainable Bond Conference 2022」でブルーボンドの取組みについて講演する坂本常務執行役員

Thank You

お問い合わせ先

マルハニチロ株式会社 経営企画部 IRグループ
メール：ir-info@maruha-nichiro.co.jp

2022年9月、統合報告書を発行いたしました。

「統合報告書2022」PDFのダウンロードは[こちら](#)から
サステナビリティレポートは[こちら](#)から



IV. Appendix

環境価値の創造に関するマテリアリティ

①気候変動問題への対応

マテリアリティ	KGI(2030年の ありたい姿)	主なKPI	ターゲット		進捗概要
			目標値	目標年	
①気候変動問題への 対応	脱炭素や気候変動に対 して業界における主導 的地位を確立している	CO ₂ 排出量削減ロードマップ策定（国内G*）	-	2022	<ul style="list-style-type: none"> ・CO₂排出量削減ロードマップの策定・公表 ・CO₂排出量削減に向け、拠点毎に太陽光発電パネル設置の現地調査実施
		CO ₂ 排出量削減率（2017年度比:国内G）	30%以上	2030	
		カーボンニュートラル達成（G全体*）	-	2050	

②循環型社会実現への貢献

マテリアリティ	KGI(2030年の ありたい姿)	主なKPI	ターゲット		進捗概要
			目標値	目標年	
②循環型社会実現 への貢献	効率的な資源利用によるサーキュラーエコノミー(循環型経済)がグループ内に浸透し、実践している	プラスチック使用量削減率 (バイオマス、リサイクル素材等への切替含む)(MN*)	30%以上	2030	<ul style="list-style-type: none"> ・容器包装プラスチック使用量削減、フードロス削減の2つの部署横断プロジェクトにより各事業レベルで取組みを開始
		フードロス(製品廃棄)削減率(国内G)	50%以上	2030	
		食品廃棄物等の再生利用率(国内G)	99%以上	~2024	

環境価値の創造に関するマテリアリティ

③海洋プラスチック問題への対応

マテリアリティ	KGI(2030年の ありたい姿)	主なKPI	ターゲット		進捗概要
			目標値	目標年	
③海洋プラスチック 問題への対応	自社を含むサプライ チェーン上で海洋への プラスチック排出ゼロを 実践している	漁具管理ガイドラインの策定と運用率(G全体)	100%	2024	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ漁具管理ガイドライン案の作成に着手 ・グループ内での“Make Sea Happy!”の開催推進
		海岸クリーンアップへの従業員参加率(国内G)	30%以上	2030	

④生物多様性と生態系の保全

マテリアリティ	KGI(2030年の ありたい姿)	主なKPI	ターゲット		進捗概要
			目標値	目標年	
④生物多様性と生態 系の保全	取扱い水産資源につい て、資源枯渇リスクがな いことを確認している	取扱水産物の資源状態確認率(G全体)	100%	2030	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回水産資源調査の開始 ・各養殖場の認証基準とのギャップ調査実施中
		生物多様性リスク評価実施(国内G)	—	2024	
		養殖場の認証レベル管理の実施(国内G)	—	2024	

社会価値の創造に関するマテリアリティ

⑤安全・安心な食の提供

マテリアリティ	KGI(2030年の ありたい姿)	主なKPI	ターゲット		進捗概要
			目標値	目標年	
⑤安全・安心な食の 提供	人々が安心できる食を 世界中の食卓に提供し ている	重大な品質事故*(国内G)	ゼロ	2024	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーンとの協働による 食品安全・食品防御レベル の向上 ・グローバル展開に対応する品 質保証体制構築への整備

⑥健康価値創造と持続可能性に貢献する食の提供

マテリアリティ	KGI(2030年の ありたい姿)	主なKPI	ターゲット		進捗概要
			目標値	目標年	
⑥健康価値創造と持 続可能性に貢献す る食の提供	健康価値創造と持続可 能性に貢献する食品ト ップ企業としてブランドを 確立している	健康価値創造と持続可能性に貢献する製品基準確立 と2030年度目標の設定(MN)	-	2024	<ul style="list-style-type: none"> ・健康価値創造と持続可能性 に貢献する食の定義・基準 策定に向け、社会課題の当 社へのインパクトを考慮して基 本的な考え方を取りまとめ

社会価値の創造に関するマテリアリティ

⑦多様な人財が安心して活躍できる職場環境の構築

マテリアリティ	KGI(2030年の ありたい姿)	主なKPI	ターゲット		進捗概要
			目標値	目標年	
⑦多様な人財が安心して活躍できる職場環境の構築	多様性が尊重された、従業員が安心して活躍できる職場環境が構築できている	採用比率女性50%維持による女性従業員比率(MN)	35%以上	2030	<ul style="list-style-type: none"> ・方針通りの採用活動 ・多方面にわたる人財育成プログラムの実施
		取締役会女性比率(MN)	30%以上	2030	
		女性管理職比率(MN)	15%以上	2030	
		マルハニチロ人財育成プログラム確立と2030年度目標の設定(MN)	—	2024	
		従業員エンゲージメント評価方法確立と2030年度目標の設定(MN)	—	2024	

⑧事業活動における人権の尊重

マテリアリティ	KGI(2030年の ありたい姿)	主なKPI	ターゲット		進捗概要
			目標値	目標年	
⑧事業活動における人権の尊重	自社会むサプライチェーン上で強制労働等の人権侵害ゼロを実現できている	サプライチェーン上の人権侵害ゼロの確認率(G全体)	100%	2030	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度の人権・労働慣行の状況と外国人技能実習生に関する調査結果を統合報告書、サステナビリティレポートに公表

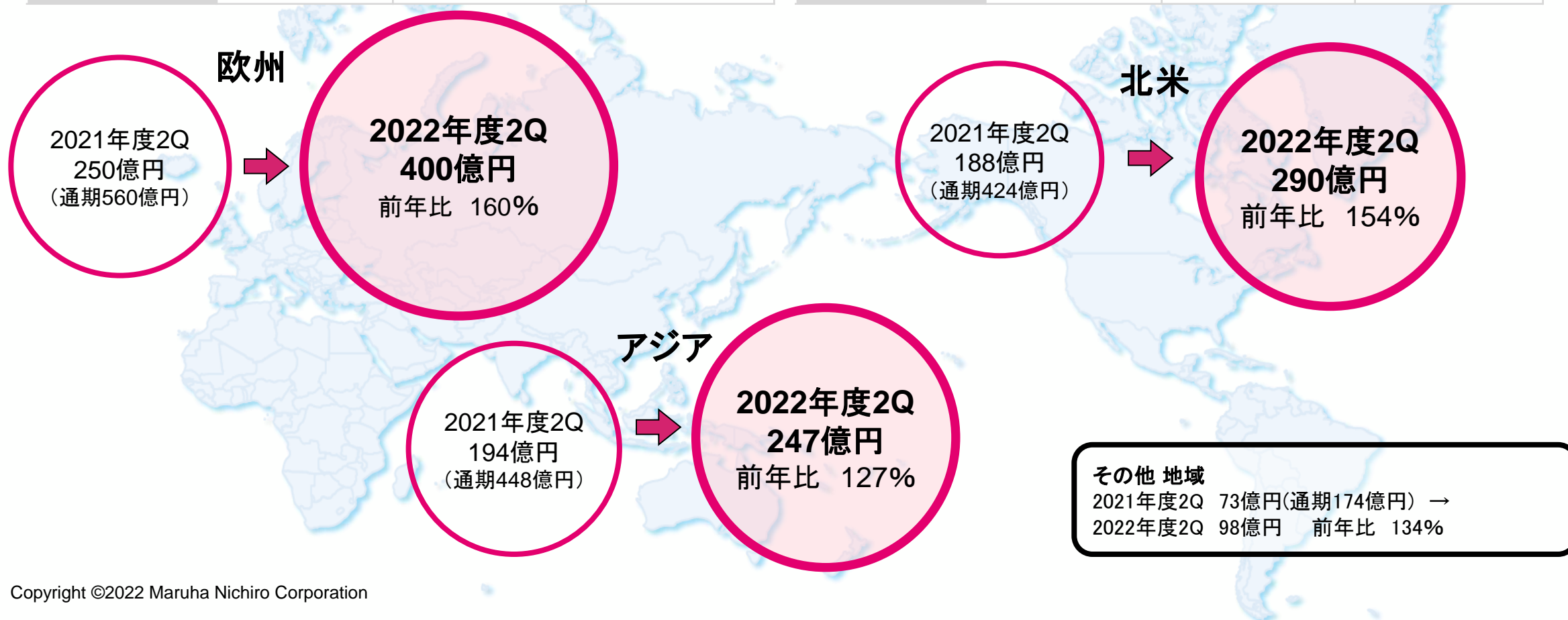
社会価値の創造に関するマテリアリティ

⑨持続可能なサプライチェーンの構築

マテリアリティ	KGI(2030年の ありたい姿)	主なKPI	ターゲット		進捗概要
			目標値	目標年	
⑨持続可能なサプライチェーンの構築	サプライヤーとの協働により持続可能な調達網構築を実現できている	サプライヤーガイドラインへの同意率・重要項目改善率(G全体)	100%	2030	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライヤーガイドラインの改訂の発行・解説書の発行 ・第2回目のサプライヤーガイドラインの順守状況の調査着手

2023年3月期第2四半期の海外売上高

海外売上高	2021年度2Q	2022年度2Q	2024年度予想	海外売上高 比率	2021年度2Q	2022年度2Q	2024年度予想
	706億円	1,035億円	2,150億円		17.1%	21.3%	22.4%





MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。